

名古屋電気学園 クラブ活動だより

愛知工業大学
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学附属中学校
愛知工業大学情報電子専門学校

平成 27 年春季版

(平成 27 年 5 月 13 日)

吉村選手 世界卓球「銀」

石川選手と混合ダブルス



銀メダルと花束を手に喜びの吉村選手と石川選手（ニッタクニュース提供）

名古屋電気学園設置校の卓球部が勢いづいています。愛知工業大学男子卓球部の吉村真晴（経営学科 4 年）、吉田雅己（同 3 年）両選手が今春の世界卓球選手権に出場、石川佳純選手（全農）とペアを組んだ吉村選手は混合ダブルスで銀メダルに輝きました。大学にとっても 46 年ぶりのメダルです。また名電高校卓球部は全国高校選抜大会で 19 年ぶり 3 度目の優勝を果たし、附属中学校卓球部は全国中学選抜大会で 3 連覇、夏の大会を含めると全国大会 5 連勝を成し遂げました。個人でも世界レベルの大会で優勝者 3 人が出ています。このほか高校吹奏楽部は昨年秋に開かれた第 62 回全日本吹奏楽コンクールの高校の部で 3 年ぶり 16 回目の金賞に輝きました。＝詳報 2、3 面

高校選抜 19 年ぶり優勝
……
中学全国大会で 5 連勝

名電卓球勢活躍光る

高校吹奏楽部 16 回目の金賞

4 記事
面

吉村・石川ペアは準決勝で前回パリ大会優勝の北朝鮮ペアを 4－2 で下し、同種目日本勢としては 38 年ぶりの決勝進出を決めました。5 月 1 日に行われた決勝では中国・韓国の国際ペアと対戦、0－4 で敗れましたが、本大会の日本勢の最高のメダルを獲得しました。吉田選手は男子シングルスで 2 回戦敗退ながら善戦しました。日本チームのコーチとして参加、2 人を支えた鬼頭明・大学男子卓球部監督は「吉村・石川はベスト 16 だった 2 年前のパリ大会に比べ、格段にレベルアップした。その力を発揮して素晴らしいプレーをしてくれました。吉田は世界ランク 8 位のポルトガルの選手を相手によく善戦した。勝ってもおかしくない、いい内容でした」と大会を振り返りました。

4 日々に帰国した吉村選手は中部国際空港でのインタビューで「率直にうれしい。苦しい場面があっても自分たちを信じてプレーしようと、石川さんとも話していました。今回のメダルは自分の卓球人生においても重要なターニングポイント。ここで自信をつけて世界で勝てる男になれるよう練習を積んでいきたい」と更なる活躍へ決意を語りました。吉村選手は今後、リオ五輪を目指すこととなりますが、鬼頭監督は「日本代表に選ばれるためには世界ランクを上げる必要があります。今後国際大会にどんどん挑戦していきたい」とも話しました。

世界選手権（個人戦）は 4 月 26 日から 5 月 3 日まで中国・蘇州で開かれました。



選抜で優勝した名電高校卓球部
（「卓球王国」提供）



選抜で3連覇しメダルをかけて
もらう附属中卓球部員たち

46 年ぶりメダル “名電の時代”、再び



プレーする吉村選手と石川選手
(卓球レポート・バタフライ提供)



善戦した吉田選手
(ニッターニュース提供)

蘇州熱闘



吉村・石川ペアに指示を出す鬼頭監督（卓球レポート・バタフライ提供）

吉田選手 男子シングルス出場

吉村選手は1月に開催された全日本卓球選手権の混合ダブルスで、一昨年、昨年に続き石川選手とペアを組み、念願の初優勝を果たし代表に選出されました。大学1年時には団体戦、2年時には個人戦に出場しており今回は3回目でした。吉田選手は昨年12月に開催された世界卓球日本代表選考会の男子シングルスで優勝し、代表の座を獲得しました。

本学選手では、過去に故長谷川信彦選手が昭和42年のストックホルム大会で男子団体、シングルス、混合ダブルスで、また44年のミュンヘン大会では大学女子卓球部の杉本(旧姓今野)安子選手との混合ダブルスで優勝しています。

世界選手権に先立って学園と学園クラブ活動後援会（高橋治朗会長）は吉村真晴、吉田雅己両選手、鬼頭明監督の壮行会を4月4日、メルパルク名古屋で開催、関係者150人が出席しました。後藤淳・学園理事長が挨拶し「早いもので吉村君は大学4年、吉田君は3年になりました。世界選手権といえは卓球部ができた頃の故長谷川信彦さん、今野安子さんペアが混合ダブルスで優勝したことが思い出されます。その後、鬼頭君、今枝君、真田君も出場しています。今度はメダルを持って帰ってきてくれると期待しています。体に気を付けて頑張ってきてください」と激励。辻本昌孝・学園クラブ活動後援会副会長も祝辞を述べました。

選手紹介や、学園と後援会からの激励金の贈呈がありました。また大学女子卓球部、高校卓球部、附属中卓球部の各主将から花束を贈呈しました。決意表明で吉村選手は「世界選手権出場は僕の目標でもあるので、このチャンスを生かしてぜひメダルを取って、皆様の前で披露したい」、吉田選手は「気持ちを高く持ち、頑張って上位を目指したい」、鬼頭監督は「日本チームのコーチとして参加でき、世界の舞台で戦えるのは光栄です。吉村、石川のペアは日本卓球協会からも高い評価を受けておりメダルは十分期待していいと思います。吉田も上位を目指して頑張りたい。応援をよろしくお願いします」とそれぞれ述べました。

最後に挨拶に立った後藤泰之学長は「大勢の皆様の激励を受け、それを胸に彼らは世界選手権に臨みます。必ずやメダルを持ち帰ってくると大きな期待をしております。いろいろな所でよく“名電の時代”が来ていると言われますが、学園創立百周年へ向けて強化を図った結果がいま形になってきました。これからもご支援をよろしくお願いいたします」とお礼を述べました。



メダルを取りたいと意気込んで出かけたのですが、ものすごく頑張ってくれて、準決勝で勝った時は泣いてしまいました。本当におめでとうございます」とお祝いの言葉を贈っていました。



後藤淳理事長



辻本昌孝副会長

クラブ活動後援会壮行会で激励



閉会挨拶で謝辞を述べる後藤泰之学長

おめでとう！吉村選手

両選手と鬼頭監督の3人は4日、中部空港経由で帰国、卓球部員や学園・大学関係者が出迎え、女子卓球部員が祝福の花束を贈りました＝写真。杉本安子さんは「とにかく

中学、高校そろって「選抜」優勝



3連覇し保護者も交え記念撮影する中学選手ら

真田浩二中学監督「連勝記録まだまだ続ける」

附属中卓球部は第16回全国中学選抜卓球大会（3月29日・埼玉県所沢市）で3連覇を成し遂げました。決勝で尾久八幡（東京都）と対戦、田中佑汰選手が先勝、堀川敦弘・新井宇輝のペアがダブルスを取り、4番手の橋本一輝選手が決め3-1で下しました。附属中は夏の全国中学校卓球大会も2連覇を続け、これで全国大会5連勝を達成しました。

準決勝の野田学園戦について真田浩二監督は「簡単には勝たせてもらえない。最後の1本までもつれる厳しい状況でしたが、選手も私も結果を求めず、やるべきことだけを求めて最後まで戦いました」と振り返りました。連勝記録について「春も夏も5連覇を目指したい。まだまだ続きます。みんな日本代表になる夢に向かって練習しているのですから」と話しました。



加賀美利輝選手

名電高校、附属中学の卓球部が今春の選抜大会で、そろって優勝、四月四日の世界選手権壮行会の席上で報告されました。五月十六日にお祝いの会が開かれます。



優勝報告する今枝監督と高校選手たち

名電高校卓球部は第42回全国高校選抜卓球大会（3月28日・香川県高松市）で優勝しました。19年ぶり3度目の快挙です。野田学園（山口県）が対戦相手となった決勝戦は大西尚弥選手、松山祐季選手が先勝、ダブルスは落としましたが4番手の百瀬卓哉選手が勝ち、3-1で勝利をつかみました。優勝を狙った昨年のインターハイは準優勝に終わっただけに、部員たちも大喜びで、今枝一郎監督も「監督として初めての優勝。感無量です」と話しました。



松山祐季選手
（「卓球王国」提供）

「優勝以外はゼロという気持ちで、選手たちが昨年の夏以上に選抜優勝を目指して頑張ってきました。優勝は自分たちの手でつかむんだよ、と言って送り出したのですが、よく期待に応えてくれました」と話し、目標は既に今夏のインターハイ優勝に向かっています。

今枝一郎高校監督「優勝以外はゼロ：感無量」

学園表彰も3件 壮行会の席上、全国大会以上のレベルで優勝した個人3人を称える学園表彰も行われました。ITTFワールドツアー2015スペインオープンで優勝した大学の吉村選手と鬼頭監督、ITTFジュニアサーキットスウェーデン大会で優勝した高校の松山祐季選手と今枝監督、2014グローバルジュニアサーキットファイナルで優勝した中学の木造勇人選手と真田監督に対し後藤理事長からそれぞれ表彰状が贈られました。



学園表彰を受ける田中佑汰選手ら
中学卓球部の皆さん

卓球関係では昨年12月12日、附属中卓球部が学園表彰を受けています。田中佑汰選手（当時2年）が11月1日～3日、滋賀県立体育館で開かれた平成26年度全日本卓球選手権大会（カデットの部）の14歳以下男子シングルスで初優勝しました。決勝で田中選手はJOCエリートアカデミーの宇田幸矢選手と対戦、3-2で破りました。田中選手をはじめ監督の真田教諭らが表彰され、後藤理事長から祝福の言葉が贈られました。



グローバルジュニアサーキットファイナルで優勝した木造勇人選手



50回を迎え盛り上がった名電高校吹奏楽部の新春恒例の定期演奏会

定期演奏会 50回迎える

吹奏楽部は1月18日、定期演奏会を名古屋国際会議場（白鳥センチュリーホール）で昼夜2回開きました。全日本吹奏楽コンクールの金賞に加えて、今回の演奏会も節目の50回を迎え、盛り上がりました。

全日本課題曲の「青葉の街で」、自由曲「復興」、本演奏会のために作曲家の八木澤教司さんが書き下ろした「ゴールデン・ジュビレーション」はじめマーチングドリルやヒットソングなど金賞の実力をたっぷりと披露し聴衆を酔わせました。この日の演奏は録音され、5月以降にCDアルバムとして発売されることになっています。

高校吹奏楽部

の精神を重ねて演奏しました。

指揮をした顧問の伊藤宏樹教諭は「強豪校が多く逆に気負いなく落ち着いて演奏できました。恵まれた練習環境も大きいです」と振り返りました。

学園は昨年12月12日、若水北校舎で吹奏楽部を学園表彰しました。コンクールに出場した吹奏楽部員55人をはじめ伊藤教諭、小林知広顧問、鈴木裕子顧問が表彰され、後藤理事長から「おめでとう」と祝福の言葉が贈られました。式の後には学園、中学・高校の幹部も加わり、ケーキと飲み物で懇談しました。

吹奏楽部は昭和30年に同好会として発足、32年にクラブに昇格。38年に合唱の指導をしていた故松井郁雄先生を迎え、3年目から全国大会へ出場、48年に全国大会で念願の金賞に輝きました。指導者が上手にバトンタッチして優秀な成績を収め、クラブ活動として生徒たちの高い人気を集めています。

輝く金賞 16 回目

名電高校吹奏楽部は昨年10月26日、名古屋国際会議場で行われた第62回全日本吹奏楽コンクールの高校の部に出場、3年ぶり、16回目の金賞に輝きました。名電高校は最多37回目の出場を誇り、今回は自由曲で保科洋作曲「復興」を演奏しました。保科さん自身が名電高校を訪れて指導、曲への思いを伝え、生徒たちも東日本大震災の被災者への思いや名電の伝統『絆』



学園表彰を受ける神山なつみ部長（当時）ら高校吹奏楽部の皆さん

高校フェンシング部

選抜大会 2年連続準優勝

名電高校フェンシング部は第39回全国高校選抜フェンシング大会（3月20日～22日・奈良県立橿原公苑第一体育館）で準優勝しました。昨年の第38回大会に続いて2年連続で好成績を残しました。

決勝トーナメントの準決勝では、昨年の決勝で敗れた強豪の東亜学園（東京都）と対戦し、45－44の大接戦の末に打ち破り、決勝進出。決勝では大垣南（岐阜県）と対戦、こちらも39－45と大健闘しましたが、及びませんでした。部長の川嶋範夫教諭と監督の冨田弘樹教諭は「生徒たちはよくやってくれました。勝てるチャンスがあった試合だったので、惜しい結果でしたが、夏のインターハイでは優勝を目指します」と話しました。

今年のチームは剣の操作が上手な主将の久米春貴選手（3年）とエペが得意でスピードのある川北信海選手（3年）の2人を中心にまとまっています。名電高校フェンシング部には創部以来続いている練習方法があり、伝統になっているといいます。壁に張り付けた小さなゴムを目がけて、毎日300から500本、ひたすら剣で突く練習です。1000本やった時代もあるといいます。選手たちはいずれも附属中や高校に入ってからフェンシングを始めましたが、こうした厳しい練習を経て伝統を築いてきました。2000年には選抜で、2010年にはインターハイでそれぞれ優勝しています。



第39回選抜で準優勝した名電高校フェンシング部の選手たち



決勝戦でプレーする川北信海選手

高校バレー部 春高バレー 第3位

名電高校バレーボール部は全日本バレーボール高校選手権（春高バレー）に出場、第3位という好成績でした。準決勝で大村工（長崎）に敗れ、初の決勝進出はなりませんでした。学校の歴史に並ぶタイ記録、北川祐介監督の下、「名門復活」へ確かな一歩を踏み出しました。

県大会で強豪の星城高校にストレート勝ちし掴んだ愛知代表の座、1月5日から東京体育館で始まった全国大会も準々決勝まで快進撃を見せていました。しかし10日の大村工戦はサーブミスやレシーブの乱れが相次ぎ、本来の力を発揮できませんでした。

20年ほど前はインターハイや国体の上位校として全国的に活躍しましたが、一時期休部もあり低迷しました。しかし北川監督の下、部員が一丸となって名門復活を目指し、今大会も目標のベスト8をクリアしました。北川監督は「今大会は新しい名電の第一歩。目指すところは優勝だが、ただ勝てればいいというものではない。高校生らしい生活を送ってさらに全国で頂点を取ればそれに越したことはない。ベスト4以上に通用するチームを目指したい」と語り、卒業する3年生に対しては「最後にこんなに素晴らしい結果を残してくれ感謝しています」とねぎらいの言葉を寄せていました。



名電高校史上タイの3位となりメダルをかけてもらう高校バレーボール部の選手たち

大学の平成26年度クラブ表彰

【卒業生】フェンシング部・佐藤創（2014年度関西学生フェンシング選手権大会フルーレ個人優勝、第64回全日本学生フェンシング王座決定戦フルーレ団体第4位メンバー）
ラグビー部・石川弘樹（東海学生ラグビーフットボールリーグ2014ベスト15（プロップ）選出）

弓道部・塚本暁央（第9回ナゴヤユニバーシティカップ男子個人第3位）

【在学生団体】フェンシング部・越水裕亮、瀧村将司（第64回全日本学生フェンシング王座決定戦フルーレ団体第4位）

洋弓部・岩坂謙吾、馬場博晃、近藤西哉（第53回全日本学生アーチェリー男子王座決定戦男子団体ベスト16、2014年度東海学生アーチェリー王座出場校決定戦男子団体優勝）

AITEP・宇恵純平、蔭山雄太、深水淳、川合瑞稀、伊佐治環人、安藤晴信、鍛本憲泰、尾関高尚、岩月晨平、濱仲真和、新實健秀、早川真一郎、長谷川知帆、大脇大輝、岡田紘幸、近藤良紀（マイナビ Ene-1GP MOTEGI 2014 KV-40 チャレンジ KV-1クラス 大学・高専・専門学校部門優勝）

【在学生個人】陸上競技部・吉田新規（第76回東海学生駅伝対校選手権大会第6区区間賞）、唐澤研太（同第4区区間賞）

フェンシング部・五定寛司（ジュニアワールドカップメキシコ大会サーブル個人予選敗退 ※日本代表で出場）



個人フルーレ優勝の佐藤創君



「Ene-1GP MOTEGI」の大学等の部門で1位となったAITEPのメンバーと車体



東京都モーグル競技会で優勝した四方元幾選手

競技スキー部・四方元幾（2014/15 FIS RACE MOGUL COMPETITION KOREA モーグル第3位、全日本スキー連盟A級公認・FISレース第23回東京都モーグル競技会男子優勝、全日本スキー連盟A級第34回北海道スキー選手権大会男子優勝）

ラグビー部・青柳大地（東海学生ラグビーフットボールリーグ2014ベスト15（スクラムハーフ）選出）、芦田朋輝（同ベスト15（ロック）選出）、増田遼太（同ベスト15（フルバック）選出）

洋弓部・長澤宏平（2014年度東海学生アーチェリー選抜選手権大会男子個人優勝、第53回全日本学生アーチェリー男子王座決定戦男子団体ベスト16メンバー、2014年度東海学生アーチェリー王座出場校決定戦男子団体優勝メンバー）

弓道部・渡辺圭亮（第58回東海学生弓道秋季リーグ戦男子十傑第3位）

メディア情報研究会・齋藤淳也（愛知県印刷工業組合主催「第5回ポスターグランプリ」協賛会社賞受賞）、島本寛右（同協賛会社賞受賞）

大学野球部が 沖縄キャンプ

大学野球部は3月5日から14日まで沖縄県名護市の名護市営球場で、選手ら60人余りが参加して春季キャンプを行いました。



沖縄キャンプで強化練習に取り組んだ大学野球部のメンバー

プロ野球日本ハムがキャンプに使用した球場で、毎日、午前、午後、夜間の練習をこなし、オープン戦も戦いました。奥田好弘監督は「沖縄らしい晴天は少なかったがその分選手は動き易く、また、野球施設も充実していることから朝8時過ぎから夜21時まで強化練習が出来ました。個々のレベルアップを主眼にチームプレーの徹底を図ることに取り組みました。新入生16名も参加してくれ、初々しさと共にチームに活力を与えてくれました」と話し、4月4日に開幕の愛知大学野球で悲願の1部リーグ復帰を目指します。

トピックス

「信夫杯 よい経験に」大学ゴルフ部



大学ゴルフ部は昨年10月30、31日に埼玉県・こだまゴルフクラブで開かれた大学団体戦の信夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦に出場しました。伝統を誇る大会とあって並み居る強豪の中で、本学は2日間の合計スコアが

638と11位の成績に終わりました。

ゴルフ部は昨秋の中部学生ゴルフ1部校秋季学校対抗戦で準優勝、昨年春季の6位から躍進し、出場権を得ました。

ゴルフ部では「伝統の大会に久しぶりに出場でき、よい経験を積むことができた。今後も出場して上位を狙えるよう頑張っていきたい」と決意を述べていました。



新商品開発に協力

大学ゴルフ部は、新規商材の発掘や企画をしているジーアイビー（名古屋市のゴルフ練習グッズ開発に協力しています。写真のように、

選手はマット上でスイングしていますが、特殊素材で作られたこのマットは弾力性があるため不安定で、足腰の強化やボールを捉えるタイミングの訓練になるということです。実験はゴルフ部が練習場としている、さなげカントリークラブで行われ、ヘッドスピードなども計測しています。これで成績向上につながればゴルフ部も会社も、「双方うれしい話」です。



空港特急ミュースカイ



名鉄パノラマカー

空港特急ミュースカイやパノラマカーも登場 鉄道研究部がイベント参加

大学の鉄道研究部は昨年10月26日、愛知県大口町の名鉄自動車専門学校で行われた「第24回ふれあい感謝デー」に5インチゲージの鉄道模型を出展、子どもたちの笑顔と夢を乗せて走りました。関係者から依頼を受け、今回初めてこのイベントに協力、部員5人が会場で乗車券の配布から列車の運転まで行いました。

出展した電車は動力車に運転席があり、客車2両が連結され、最大5人乗りです。OBが製作したものを代々修理しながら、様々なイベントに出展しています。

名鉄の空港特急ミュースカイやパノラマカーの外観も、スチレンボードや厚紙などから学生が手作りしました。動力車には自動車用のバッテリーが積まれ、直径15mmの正円状に敷かれたレール上を、人が歩く程度の速さで走りました。

会場は地域の親子連れで賑わい、子どもたちは大喜びでした。今回、初めて5インチゲージ模型のイベントに参加した応用化学専攻当時1年の長谷川達郎君は「多くの方に喜んでいただけて大変良かったです。機会があるならまた参加したいと思っています」と話しました。

「頑張れ！ 全国大会」 中学、高校の各クラブを表彰

学園は全国大会に出場する中学、高校のクラブに対し「クラブ表彰」を行い、活躍を祈念、激励しています。26年度下期も多くのクラブが対象になり3回にわたって表彰が行われました。後藤淳理事長はじめクラブ活動後援会や同窓会、PTAも激励しています。表彰されたクラブを紹介します。



春の大会へ向け健闘を誓った今年3月のクラブ表彰

クラブ活動後援会も激励

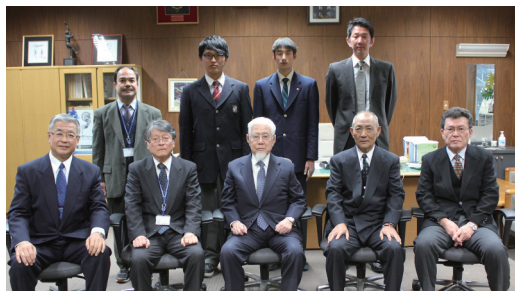
昨年11月17日、高校の吹奏楽部と将棋部をクラブ表彰しました。吹奏楽部は11月3日に三重県で開かれた東海マーチングコンテストで金賞を受賞、23日に大阪城ホールで行われた全日本マーチングコンテストに出場し、銀賞を得ました。将棋部は第23回全国高校文化連盟将棋新人大会の愛知大会で4位となった当時2年の水野葵さんが今年1月に新潟市で開かれた全国大会に出場しました。

12月12日はバレーボール部とボウリング部を表彰しました。バレーボール部は今年1月に東京で開かれた全日本バレーボール高等学校選手権大会（春高バレー）に出場、ベスト4・第3位に輝きました。ボウリング部は神奈川県で開かれた全国高等学校学校対抗選手権大会に出場しました。各クラブ顧問及び生徒代表者1人が出席、後藤理事長から激励を受けました。

今年3月20日には高校9クラブ、中学3クラブの計12クラブを表彰しました。特に中学、高校の各卓球部はそろって選抜大会で優勝しました。表彰されたクラブは次の通りです。



昨年11月のクラブ表彰



昨年12月のクラブ表彰

【高校】

水泳競技部 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会 東京辰巳国際水泳場（東京都）

ウェイトリフティング部 第30回全国高等学校ウェイトリフティング競技選抜大会 金沢市総合体育館（石川県）＝女子が2位

自転車競技部 平成26年度全国高等学校選抜大会 トラック：熊本競輪場（熊本県）ロードレース：山鹿市特設ロードレースコース

相撲部 平成26年度全国高等学校相撲選抜大会 高知県立春野運動公園相撲場（高知県）

フェンシング部 第39回全国高等学校選抜フェンシング大会 奈良県橿原公苑第一体育館（奈良県）＝準優勝

スキー部 平成26年度全国高等学校総合体育大会 花輪スキー場（秋田県）

卓球部 平成26年度全国高等学校選抜卓球大会 高松市総合体育館（香川県）

メカニカルアーツ部 ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2015 尼崎大会 ベイコム尼崎（兵庫県）

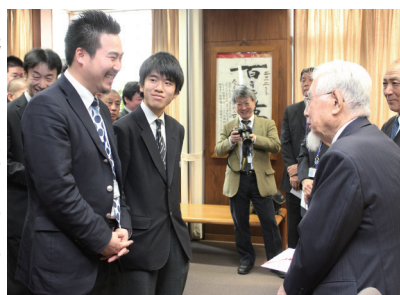
ゴルフ部 第35回全国高等学校ゴルフ選手権大会 瀬田ゴルフコース（滋賀県）

【中学】

卓球部 第16回全国中学選抜卓球大会 所沢市民体育館（埼玉県）

メカニカルアーツ部 ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2015 尼崎大会 ベイコム尼崎（兵庫県）

スキー部 第52回全国中学校スキー大会 大鰐温泉スキー場（青森県）



各クラブの顧問を務める先生や主将に対し
質問やユーモアを交えながら激励する後藤理事長



聴衆に楽しいひと時を提供したギター部の WINTER CONCERT

クラシックも織り込んで、訪れた約 200 人の聴衆に美しい音色を披露しました。

「みんなで楽しく」を合言葉に毎週火、金曜日夕方に練習を積んでおり、内田裕之部長は「演奏会の目標も聴衆に楽しんでもらうこと」と話しています。今年も 12 月 20 日に同じ会場で開く予定です。

優しい音色 聴衆魅了 大学ギター部定期演奏会

大学ギター部は昨年 12 月 28 日夜、名古屋電気文化会館ホールで「WINTER CONCERT」と銘打ち、定期演奏会を開きました。ポップスを中心に、映画音楽や

女子として初の 2 位 ウェイトリフティング部

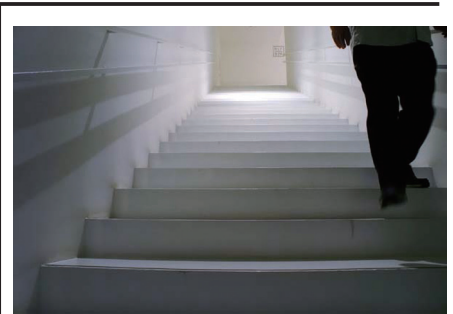
ウェイトリフティング部は、1949 年の創部から今年で 66 年を迎えます。週に 1 回程度、前監督の高橋力先生にご指導頂きながら、選手も日々練習に励み、全国大会出場や入賞、更なる記録向上など部員それぞれが目標を持って頑張っています。スナッチとクリーン & ジャークの 2 種目ある競技で選手の得手不得手はありますが、極力苦手意識を持たせないように努めています。

現在、部員数は 10 人。その中に女子 1 人、中学生 1 人がいます。数は少ないですが、ここ数年は女子部員の入部が続き、全国大会出場や入賞を果たしてきました。なかでも、先日開催された第 30 回全国高等学校選抜大会では、女子としてクラブ初の第 2 位になりました。その火を消さないように女子部員の確保に力を注いでいきたいです。

今年、附属中に入學し、「ウェイトリフティング部に参加したい」と小学校から競技経験のある生徒が入部しました。こちらも全国大会入賞を目指し、さらに中学生部員が増えるように尽力したいと思っています。（出村亨市教諭）



練習に取り組む女子部員



高校写真部・小島君が奨励賞

高校写真部の小島稜太君（当時 1 年）が高文連の第 29 回「高校生の写真展」で奨励賞を受賞しました。作品＝写真＝のタイトルは「下り人生」。応募作品 269 点の中から選ばれました。作品は 1 月 20 日～25 日「名古屋市民ギャラリー栄」で展示されました。

高文連の第 29 回写真展

トピックス



オーラルイングリッシュを練習 英語研究部

英語研究部は平成 17 年度に部活動として発足しました。このクラブを作った時代の英語の授業は、教師は訳読中心主義の指導方法をとっていました。しかし、これからの時代は、英語を聴ける・話せる能力が不可欠であると考え、「コミュニケーションの英語」に精通する生徒を育てようという趣旨です。

活動はリスニングとスピーキングが中心。20 人の部員が月に 1 回、アメリカ人のネイティブの英語の先生を招いて指導を受け、実際のビジネスシーンで使える英語を楽しく学んでいます。つまり、オーラルイングリッシュのトレーニングです。写真はカナダ人を招いて、スピーキングの練習をした時のものです。

外国語専門学校が主催するコンテストに定期的に出場していますし、英検などには多数合格者を出しています。（福田博教諭）

カナダ人講師を招いてスピーキングの練習をした際に記念写真を撮りました